

福祉サービス第三者評価結果

事業所名 うーたん保育園

発効：2018年3月5日（2021年3月4日まで有効）

公益社団法人神奈川県介護福祉士会

公益社団法人神奈川県介護福祉士会 第三者評価結果

事業所基本事項

フリガナ	ウータンホイクエン
事業所名 (正式名称を記載)	うーたん保育園
事業所種別	保育所
事業所住所 最寄駅	〒253-0072 神奈川県茅ヶ崎市今宿473-1 JR「茅ヶ崎」駅よりバス「今宿」下車徒歩1分
事業所電話番号	0467-84-4010
事業所FAX番号	0467-84-6061
事業所代表者名	役職名 園長 氏名 瀬山 さと子
法人名及び 法人代表者名	法人名 社会福祉法人 翔の会 法人代表者氏名 理事長 川内 智恵子
URL	
e-mail	utan_hoiku@yahoo.co.jp
問合せ対応時間	8:00~17:30

事業所の概要1

開設年月日	平成24年7月1日
定員数	72名
都市計画法上の用途地域	北側：第2種住居地域 南側：準工業地域
建物構造	耐火建築物・鉄筋コンクリート造り・地上4階
面積	敷地面積(3417.88)㎡ 延床面積(480.41)㎡

事業所の概要2 (職員の概要)

総職員数	31名
うち、次の職種に該当する職員数	園長 (1名) 保育士 (23名) 看護師 (1名) 栄養士 (1名) その他 (事務員、用務員、調理員)

事業所の概要3 (受入・利用可能サービスの概要)

受入年齢		
延長保育の実施	有	備考:
休日保育の実施	無	備考:
一時保育の実施	有	備考:
障害児保育の実施	有	備考:
病後児保育の実施	無	備考:

保育の方針

<p>○子どもたち一人ひとりが自分自身への信頼感をもち、自分を大切に思えるようになること。 ○やわらかに開かれた心をもち、だれをも大切に思え、さまざまな人とともに生きていけること。 ○その人なりのからだど心の調和がとれるようになること。</p>
--

公益社団法人神奈川県介護福祉士会 第三者評価結果

1. 総合コメント

総合評価（事業所の特色や努力、工夫していること、事業所が課題と考えていること等）

- 法人の基本理念「誰もが地域で暮らせるために(大切にしたいこと)①一人ひとりをかけがえのない存在として尊重します。②本人を中心として寄り添う支援を行います。」を基に、「①子どもたち一人ひとりが自分自身への信頼感をもち、自分を大切に思えるようになること。②やわらかに開かれた心をもち、だれをも大切に思え、さまざまな人とともに生きていけること。③その人なりのからだとの心の調和がとれるようになること。」を保育方針に掲げ、日々の子どもたちの保育にあたっている。
- 園は複合支援施設「ちがさきA・UN」の1階の奥にあり、児童発達支援センターと隣りあっている。1階には就労継続支援A型事業所としての「カフェあうん」や、重複障害などにより医療的ケアが必要な方が利用している「おーらい」がある。また、2～4階の特別養護老人ホーム「ゆるり」では高齢者が生活を送っている。保育園と児童発達支援センターがひとつになった保育・療育の場を提供している。看護師も常駐するように配置している。
- 園には障害を持つ子どもが10名近くおり、どの子どもも普通に生活を送ることができるように配慮して保育にあたっている。児童発達支援センターを併せて利用している子どももいる。児童発達支援センターとは、交流オープンデーを設け、障害のある子どもと一緒に遊ぶ機会を定期的に設けている。また、「おーらい」の重度心身障害児者との交流も行っている。2～4階の特別養護老人ホーム「ゆるり」には、子どもたちが自由に行き来して、高齢者と散歩に行ったり、行事の準備などを共に楽しんでいる。
- 3・4・5歳児は、異年齢交流のため、縦割り編成クラスにしている。子どもたちは、朝のミーティングで輪になって座り、話し合いを行い、その日、自分が行うことを決めている。子どもたちは乳児のクラスにも自由に行き、小さい子どもの面倒をみるなど、自分らしさを発揮している。
- 子どもたちのその日の行動や、「らららライブ」や「アートフェス」、「すぽフェス」などの行事の役割など、保育士が何をやるかを決めるのではなく、子どもたちが自分たちで考え、自分が何をやるのかを皆に伝えられるように保育している。子どもたちの主体性を尊重した保育を展開している。また、3年前より、日々の子どもたちの様子をその日のうちに「ドキュメンテーション」としてまとめ、保護者に示している。クラスごとに日々の活動の写真を撮りファイルにしている。写真にはコメントを入れ、園の方針に沿った活動や子どもたちの様子を伝えている。「ドキュメンテーション」は保護者にも好評である。
- 給食当番も、担当クラスだけは保育士が決めるが、希望する子どもがその日の当番を担えるようにしている。給食配膳はセミバイキング方式を取り入れ、当番のクラスの中で配りたい子どもが全員の子どもに食事を盛っている。子どもたちはお盆を持ち、順番に自分の食べられる量を配っている子どもに伝えて、盛ってもらっている。
- 子どもたちは、畑や園庭で野菜を育て、クッキングなどの調理を経験したり、海岸まで散歩に出掛け、自然と触れ合っている。子どもたちは普段からよく歩き、散歩の帰りなどに、同一法人が運営する「カレッタカレッタ」に寄り、軽食や飲み物を摂って楽しんでいる。
- 子どもたちがその日に何を行うのかを自分で決めている。子どもたちの主体性を尊重した保育の方針や、保育を可視化したドキュメンテーション保育の実践を保護者に理解してもらおう努力を積み重ねている。
- 園独自の献立により、マ(豆類)ゴ(胡麻)ワ(わかめ)ヤ(野菜)サ(魚)シ(椎茸キノコ類)イ(イモ類)の食材を使って、ご飯を中心にした和食を提供している。障害のある子どももいるので、一人ひとりに合った形態を工夫し、すべて手作りの調理で提供している。

評価領域ごとの特記事項		
1	人権への配慮	<ul style="list-style-type: none"> ○新年度の法人職員全体研修会の資料に、「翔の会職員倫理規程」を入れて全職員に配布し、子どもや保護者に対して適切な言葉遣いや態度で接することや、差別の禁止について説明している。 ○現在、外国籍の子どもはいないが、障害を持つ子どもが10名近くおり、どの子どもも普通に生活を送ることができるように配慮している。 ○市要保護児童対策地域協議会実務者会議や研修会、市内の保幼小連携協議会に、園長や主任保育士、保育士が参加し、地域の関係機関や団体と情報交換を行い、子どもの虐待予防や早期発見に努めている。 ○保護者に対して「個人情報の取り扱い及び使用に関する同意書」を示し、写真の使用の可否などの確認をしている。また、何か問題があった時には、連絡帳や面談などにより、保護者と直接対応している。 ○実習生やボランティアの受け入れの際は、園長や主任保育士より、事前にオリエンテーションを行い、プライバシーの保護について周知している。実習生やボランティアには、プライバシーの保護について、同意書を提出してもらっている。
2	利用者の意思・可能性を尊重した自立生活支援	<ul style="list-style-type: none"> ○乳児は統一した形式の「連絡帳」で、幼児は個人個人自由な形式の「連絡帳」で、家庭との連絡、情報交換を行っている。体調不良時などに保護者に連絡を取る際の連絡先や連絡順も確認している。 ○懇談会は年2回、個人面談や保育参観は年1回行い、保護者からの園に対しての希望や意向を把握している。懇談会では保護者からの声を聴く時間をできるだけ多くとるよう配慮している。また、園内に匿名で投函できる「ご意見箱」を設置している。 ○子どもたちはのびのびと自由に園での生活を送っている。3～5歳児は異年齢交流のため、縦割り編成クラスにしている。朝のミーティングで、子どもたちは輪になって座り、今日、自分が何をするのか自分自身で決めている。
3	サービスマネジメントシステムの確立	<ul style="list-style-type: none"> ○園内の廊下に、「苦情解決のしくみと手順」や、苦情受付担当者、苦情解決責任者、第三者委員名を掲示している。「苦情申出書」や「改善結果(状況)報告書」など、記録様式を整備している。今年度は書式に残る苦情は発生していない。 ○月に1回、「安全チェックリスト」を用いて、遊具の安全点検などを行っている。隣接している市の公園遊具の修理は市役所に連絡し、修理などを依頼している。市の公園は地域の方も多く利用するので、修理・点検の依頼は頻繁に行っている。 ○非常勤の看護師を3名配置し、常時2名は出勤するようにしている。与薬は基本的に看護師が担当し、与薬前に必ず子どものクラスやフルネームを確認し、誤与薬の防止に努めている。 ○2か月に1回、看護師が「ほけんだより」を作成し、保護者に対して感染症などの情報を提供している。また、玄関前のホワイトボードに感染症の情報を掲示している。 ○避難訓練を毎月実施し、内容を毎月の全体会議で共有している。また毎年、全館合同の避難訓練を行っている。市と地域避難場所指定の取り決めを交わし、地域の自治会とも連携している。
4	地域との交流・連携	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の子育て支援は、主任保育士を担当としている。市内の保幼小連携協議会に出席し、内容は会議で報告している。市や町の小学校教員とも連携している。 ○園と児童発達支援センターが主催し、夕涼み会やA・UN夏まつり、すぽフェス、アートフェスに地域の子育て家族や一時保育利用の家族、卒園児に声を掛けている。 ○地域の子育て家庭に向け、虐待相談などの受付を継続的に行っている。相談の内容は、「相談記録」にまとめている。

5	運営上の透明性の確保と継続性	<ul style="list-style-type: none">○全職員が、年度末に自己評価を行い、「自己評価表」にまとめ、新年度に活かすようにしている。自己評価の結果から、絵本の読み聞かせを毎日行うようにしたり、非常勤会議を年1回から、年3回に増やしたりしている。○園の運営や事業内容については、法人のホームページに情報を掲載している。子どもたちの日々の様子は、「ドキュメンテーション」としてまとめ、保護者に紹介している。○保護者には、「園のしおり」に、保育参観や保育参加について記載し伝えている。また、「年間行事予定表」に日程を記載している。
6	職員の資質向上促進	<ul style="list-style-type: none">○年1回の法人職員全体研修会にて、法人の理念や方針の周知を図っている。また、法人全体で、人権研修も年1回行っている。○園長及び主任保育士を研修担当として、年間計画表を作成し、外部研修に参加している。内部研修は法人全体研修委員会にて、企画、実施している。外部研修に参加した際には、全体会議や内部研修時に研修報告を行い、研修報告書は事務室に置き、いつでも職員が閲覧できるようにしている。

2. 評価項目に基づく評価の結果

大項目1 保育環境の整備

評価機関が定めた評価項目に添って、調査を行った結果です

大項目1全体（調査確認事項全80事項）を通してのサービスの達成状況	96%
--	------------

大項目1の内容(概要)

1	人権の尊重	子どもや保護者に対する態度や言葉遣い 出生や国籍、性差などによる差別の禁止 子どもの虐待予防や早期発見のための地域の関係機関・団体との連携
2	プライバシー確保	プライバシー確保への配慮 個人情報保護の体制整備
3	家庭と保育園との信頼関係の確立	家庭との連絡、情報交換の体制 家庭の意向・希望の把握
4	苦情解決システム	苦情解決の体制整備
5	環境整備	温度や湿度等の管理 洗剤等の危険物の管理 おもちゃ、遊具等の管理
6	健康管理(感染症対策・救急救命を含む)	体調不良児、けがへの対応 感染症への対応 救急事態発生時の医療機関・家族等との連携
7	危機管理(防災・防犯)	火災や震災等の対応 日常の防災・防犯体制の整備
8	地域の子育て支援	地域内の子育てニーズの把握と支援
9	自己評価と情報開示	自己点検・改善活動の実施 地域への情報提供、情報開示 見学や保育参観の機会の設定
10	職員研修	職員研修の実施 実習生の受入れ、指導

大項目2 保育内容の充実

事業所から自己申告された内容について、事実確認を行った結果です

項目	事業所による取り組みのアピール (事業所が記載した原文のまま公表しています)	第三者評価での確認点
<p>子どもと保育士とのかわりにおいて、子どもの情緒の安定をはかることや、順調な発育・発達を促すためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>①3・4・5歳児は異年齢交流のため、縦割り編成クラスにしている。 ②臨床心理士と児童発達支援センターの職員を交えて、月1回ケア会議を行なう。 ③児童発達支援センターとの連携(オープンデーの開催)。</p>	<p>①3歳以上の子どもは縦割りクラスといること、ただし子どもたちは年少のクラスにも自由に行き、小さい子どもの面倒をみるなど自分らしさを発揮していること、小さい子どもは大きい子どもが来てくれることにより心の安定が図られていることを、「ドキュメンテーション」や訪問調査時の子どもたちのミーティングの様子で確認した。 ②保護者から気になる子どもの相談を受けた時は、臨床心理士や児童発達支援センターの職員と話し合い、アドバイスを受けて保育にあたっていること、保護者も安心感が得られていることを、聴き取りで確認した。 ③児童発達支援センターとの間の扉を開け、発達支援センターの子どもたちと一緒に遊ぶ日を設けていること、絵本の読み聞かせやボールプール、お家ごっこなど、テラスで一緒に遊んだり、それぞれ自分の好きな遊びを行っていることを、訪問調査時の子どもたちの様子や聴き取りで確認した。</p>
<p>子ども同士のかかわりにおいて、個の違いを認めあうことや他者と自分を大切にすることを育てるようするためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>①オープンデー(児童発達支援センターとの交流)。 ②おーらい利用児童との交流。 ③縦割り保育による異年齢児との交流。</p>	<p>①児童発達支援センターとの交流オープンデーでは、子どもたちが計画を立て、障害のある子どもたちと一緒に遊んでいること、子どもたちの障害を認め、相手を思いやる気持ちを大切にしていることを、「保育日誌」や訪問調査時の子どもたちの様子で確認した。 ②重度心身障害児との交流も行っており、車いすの子どもも一緒に遊んでいること、車いすを押したり、何かを見せ合ったりして、障害の壁を越えて普通に活動していることを、「保育日誌」や聴き取りで確認した。 ③各クラス朝のミーティングで、今日は何をするのかを話し合い、年中、年長のクラスは年少クラスに昼寝のお手伝い(トントン隊)に行き、蒲団を優しくトントンして昼寝をさせていること、とても優しく、年少の子どもたちは安心して眠ることができていることを、「ドキュメンテーション」や聴き取りで確認した。</p>

<p>子どもと社会とのかわりにおいて、人に役立つことの喜びを感じたり、人と関わることの楽しさを味わうことができるようにするためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>①毎週金曜日にA・UNマルシェに参加。地域の人と直接野菜販売で交流している。</p> <p>②他事業所が運営している畑にて芋堀りやブルーベリー摘みなど。他事業所のスタッフや利用者さんとの交流を楽しんでいる。</p> <p>③ゆるりの利用者さんやご家族との交流。一緒にお散歩やイベントの中で自然に触れ合いをしている。</p>	<p>①A・UNマルシェは、地域の方たちがとれたての野菜を持参し、玄関前のテントで野菜を販売していること、販売の手伝いを希望する子どもはマルシェに行き、職員や特別養護老人ホームの利用者と一緒に野菜を売り、地域の人たちと関わり社会性を身につけていることを、「ドキュメンテーション」や訪問調査時の野菜販売の様子で確認した。</p> <p>②子どもたちは近隣の畑の手伝いをし、野菜の収穫を楽しんでいること、畑では他事業所の人たちとも交流していることを、「保育日誌」や聴き取りで確認した。</p> <p>③子どもたちは同一建物の2～4階の特別養護老人ホームに行き、高齢者と散歩に行ったり、行事の準備などを共に楽しむなどして、自由に行き来していること、園庭に隣接する市の公園では、毎日地域の人たちと触れ合っていることを、「ドキュメンテーション」や聴き取りで確認した。</p>
<p>生活や遊びなどを通して、言葉のやりとりを楽しめるようにするためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>①3・4・5歳児は毎朝のミーティングでクラスの子ども同士・担任と意見交換などやり取りを楽しむ。</p> <p>②給食配膳はセミバイキング方式なので、お当番さんに自分の言葉で自分の食べられる量を伝える。</p> <p>③低年齢児など他クラスとの交流を楽しむ。</p>	<p>①朝のミーティングでは、子どもたちが輪になって座り、今日やりたいことなど、子どもたち全員が話ができる場面を作っていること、保育士が何をやるか決めるのではなく、子どもたちが自分で考え、自分が何をやるのか皆に伝えていることを、「保育日誌」や「月案」、訪問調査時のミーティングの様子で確認した。</p> <p>②給食当番も希望する子どもがその日の当番になり、全員の子どもに食事を盛っていること、子どもたちはお盆を持ち、順番に自分の食べられる量を伝えていることを、「保育日誌」や訪問調査時の昼食の様子で確認した。</p> <p>③乳児が大好きな子どもは乳児の部屋に行き、抱っこをしたり、ねんねさせたりしていることを、「週案」や聴き取りで確認した。</p>

<p>生活や遊びなどを通して、話すこと・聞くことが楽しめることや言葉の感覚が豊かになること、自分の伝えたいことが相手に伝わる喜びを味わうことができるようにするためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>①3・4・5歳児は毎朝のミーティングでクラスの子ども同士・担任と意見交換などやり取りを楽しむ。 ②給食配膳はセミバイキング方式なので、お当番さんに自分の言葉で自分の食べられる量を伝える。 ③散歩先や行事の内容などを子ども達が決め、イベントを作り上げていく。</p>	<p>①朝のミーティングでは、子どもたちが輪になって座り、今日やりたいことなど、子どもたち全員が話ができる場面を作っていること、保育士が何をやるか決めるのではなく、子どもたちが自分で考え、自分が何をやるのか皆に伝えていることを、「保育日誌」や「月案」、訪問調査時のミーティングの様子で確認した。 ②給食当番も希望する子どもがその日の当番になり、全員の子どもに食事を盛っていること、子どもたちはお盆を持ち、順番に自分の食べられる量を伝えていることを、「保育日誌」や訪問調査時の昼食の様子で確認した。 ③子どもたちは朝のミーティングで、今日の散歩コースをどこにするかを話し合っ決めてたり、イベントの内容を話し合っ自分たちで決めていることを、「保育日誌」や訪問調査時のミーティングの様子で確認した。</p>
<p>生活や遊びなどを通して、楽しんで表現することができるようにすることや表現したい気持ちを育むためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>①各月で外部講師を招いてのワークショップを開催。 ②毎年2月にアートフェスを開催。クラス活動で自由に作り上げた作品を展示して、保護者に見てもらえる喜びを感じる。 ③年長児は法人イベントのらららライブに参加。発表内容から衣装まで子ども達が話し合い作り上げる喜びを感じる。</p>	<p>①外部講師を毎月招き、ワークショップを行っていること、「インクルーシブな造形遊び(テーマや用途などにしばられない造形遊び)」として、いろいろな材料を使った描画遊びや染料を使った色水屋さん、すずらんテープで風と遊ぶなど、創造性を養い表現力を高めていること、保育士も一緒に楽しんでいることを、「インクルーシブな造形遊び一覧」や「保育日誌」で確認した。 ②2月に園内で「アートフェス」を行い、自分たちの作品をどのように展示するかを決め、保護者に見てもらい楽しんでいることを、「ドキュメンテーション」や「保育日誌」で確認した。 ③法人の音楽イベント「らららライブ」に参加し、歌や楽器、衣装を子どもたちが話し合いをして決めて参加していることを、「ドキュメンテーション」や「保育日誌」で確認した。</p>

<p>生活や遊びなどを通して、自発的に表現する意欲を育むことやみんなと一緒に表現する喜びを味わえるようにすること、創造的に表現することができるようにするためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>①年長児は法人イベントのらららライブに参加。発表内容から衣装まで子ども達が話し合い作り上げる喜びを感じる。 ②強制でなく、自分でコーナーを自由に選んで参加するスタイルで、ワークショップを開催。 ③親子で体を動かして楽しむすぽフェスを開催。今年度は参加競技も自由にし、好きな物に自発的に参加できるスタイルにした。</p>	<p>①法人の音楽イベント「らららライブ」に参加し、歌や楽器、衣装を子どもたちが話し合いをして決めて参加していることを、「ドキュメンテーション」や「保育日誌」で確認した。 ②各保育室に絵本コーナーや粘土コーナーなどを設け、自分で好きな遊びができるようにしていること、障害の子どもがパニックになった時には、気持ちを落ち着かせる場として「くまさんのお部屋」があることを、訪問調査時の部屋の様子や聴き取りで確認した。 ③毎年10月、親子で身体を動かして楽しむお祭りとして「すぽフェス」を行っていること、子どもたちが内容を決め、参加も自由にしていること、園として一斉に何かを行うのではなく、皆が楽しく、自発的に参加できることを基本としていることを、「ドキュメンテーション」や聴き取りで確認した。</p>
<p>生活や遊びなどを通して、聞く・見るなど感覚の働きを豊かにすることや身体を動かす楽しさを味わうこと、身近なものに対する興味や関心を引き出すためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>①近隣の農園や地域に散歩に行き、色々な経験をする。 ②図鑑を持って戸外に出て虫・植物などの観察をする。 ③他事業所(ゆるり・おーらい・カレッタカレッタ・ブルーベリーなど)に行き、地域の暮らしを知る。</p>	<p>①職員が自主的に畑作りを行い、子どもたちはサツマイモやトウモロコシなどを栽培し収穫していること、また園庭にはプランターでナスやトマトなどの野菜を育てていることを、「ドキュメンテーション」や「保育日誌」で確認した。 ②糸とサキイカを持ち、近くの川や公園に行き、現地で小枝を調達して竿を作り、ザリガニ釣りをしたり、知らない虫などの観察をし、図鑑で調べたりして、絵に描いたりしていることを、「ドキュメンテーション」や聴き取りで確認した。 ③子どもたちは海岸まで散歩に出掛けていること、普段からよく歩き、散歩の帰りなどに同一法人が運営する「カレッタカレッタ」で、軽食や飲み物を摂って帰って来たりしていることを、「ドキュメンテーション」や聴き取りで確認した。</p>

<p>生活や遊びなどを通して、身近な様々なものに対する探索意欲を満足させることや社会や自然の事象や、動植物への興味や関心をもてるようにするためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>①海まで散歩に行き、海での経験を楽しむ。 ②ザリガニ釣り、クワガタとりなど自然の中で工夫しながら生き物を見つける喜びを知る。 ③野菜を育て、それを調理して食べる事で、植物の成長の様子、味、匂い、手触りなどを身体で感じる。</p>	<p>①海岸までは歩いて20分くらいかかるが、散歩コースとしてよく利用して、子どもたちは貝殻を拾ったり、波と遊んだりして楽しんでくることを、「ドキュメンテーション」や保育室の部屋飾りで確認した。 ②近くの川や公園で、生き物を見つけ、生態を調べたり、飼育したりして可愛いがっていることを、「ドキュメンテーション」や聞き取りで確認した。 ③畑でできた野菜や、プランターで皆で育てた野菜を収穫して、昼食の食卓に載せてもらっていること、子どもたちは自分たちが育てた野菜を喜んで食べていることを、「ドキュメンテーション」や「保育日誌」で確認した。</p>
<p>自分から食べようとする意欲を育んだり、排泄をしようとする意欲を育むためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>①2歳児からスタッフや給食当番に自分で食べられる量を決め、伝えることで、自信を持って完食できる喜びを味わう。0～1歳もそれぞれの方法で表現し、大人に受け止めてもらう。 ②クッキングを楽しむ(全年齢クラス)。 ③一斉ではなく、個々のリズムに沿って排泄に誘う。</p>	<p>①自主的に行っている給食当番の子どもに、自分の食べられる量を伝え、完食できるようにしていること、お代わりをしたい子どもは当番に伝え、お代わりをして食べていることを、「ドキュメンテーション」や訪問調査時の昼食の様子で確認した。 ②クラスごとに子どもたちが何を作りたいかを考え、計画書を作成し、全クラスでクッキングを行っていること、サツマイモのプリンやカステラ、かぼちゃのクッキーなど、自分たちで材料の買物に行き、自分たちで作って食べていること、また梅干を漬けておにぎりを作ったり、味噌作りをして芋煮会なども行っていることを、「食育計画書」や「調理保育計画書」などで確認した。 ③トイレトレーニングは、子どもたち個々のリズムに合わせて行っていることを、「保育日誌」や「生活記録表」で確認した。</p>

<p>身の回りのことを自分でしようとする意欲を育むことや基本的な生活習慣を身につけること、食事や休息の大切さを理解することができるようにするためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>① 幼児ミーティングや絵本などで子ども同士で話し合う場を作っている。 ② 縦割り編成で生活を支え合う。 ③ 栄養素についての認識を深める。</p>	<p>① 朝のミーティングの後に絵本の読み聞かせを行っていること、また子ども同士で、読んだ本について話し合う時間を設けていることを、聴き取りで確認した。 ② 登園すると上着を脱ぎ、靴下を脱ぎ、上着は洋服掛けに、靴下は牛乳パックで作られた「靴下のお家」にまとめて入れていること、小さい子どもがうまく靴下がまとめられなかったりすると、大きい子どもが手伝うなど、子ども同士で支え合っていることを、訪問調査時の子どもたちの様子や聴き取りで確認した。 ③ 栄養士から栄養素の話などをわかりやすく伝えていること、和食を基本とした給食を提供しているので、子どもたちは切り干し大根や、ヒジキなど皆好きであることを、「食育計画書」や聴き取りで確認した。</p>
---	--	---

大項目3 保育園の特徴

事業所から自己申告された内容について、事実確認を行った結果です

項目	事業所による特徴的取り組みのアピール (事業所が記載した原文のまま公表しています)	第三者評価での確認点
<p>子どもの豊かな心と身体をはぐくむための特徴的な取り組みについて説明してください</p>	<p>①縦割り編成クラス及び低年齢児との交流により、同年齢交流だけでは経験できない支え合いや成長がみられる。 ②発達支援センターやおーらいとの交流、オープンデー等を経験し、色々な子がいる事を知る。 ③2～4階の特別養護老人ホーム(ゆり)に自由に行き、お年寄りと遊び、教えてもらっている。</p>	<p>①兄弟がいない子どもが多く、人との関わりが少ないため、縦割り保育を行う他、子どもたちが自由に乳児クラスに行くことができるようにしていること、小さい子どもは大きい子どもにあこがれ、真似をしながら遊んでいることを、「ドキュメンテーション」や「保育日誌」などで確認した。 ②縦割り保育の中で、障害を持つ子どもも普通に一緒に活動していること、いろいろな子どもがいることを学び、子どもたちは互いに助け合いながら行動していることを、「ドキュメンテーション」や訪問調査時の子どもたちの様子で確認した。 ③2～4階の高齢者と一緒に絵本を読んだり、折り紙をししたりして、いろいろなことを教えてもらっていることを、「ドキュメンテーション」や聴き取りで確認した。</p>
<p>保育環境に特別な配慮を必要とする子ども(長時間保育、障害児保育、乳児保育、外国籍園児)の保育に関しての特徴的な取り組みについて説明してください</p>	<p>①障害児の受け入れ(療育手帳所持7名・診断書所持2名)や発達支援センターを併用利用している児童7名など、一人ひとりの個性を理解し、それぞれが過ごしやすい環境や他児との交流を常に考え保育を行っている。 ②外国籍の子がいないため、言葉や習慣の違いによる問題はない。 ③ひとり親家庭が多く、保護者に、今大変なこと、困っていることは何かをよく聴き、保護者が疲弊しないように配慮している。</p>	<p>①さまざまな重度の障害を抱える子どもがいるため、看護師を配置し、医療的対応もすぐにできるようにしていることを、訪問調査時の看護師の対応や聴き取りで確認した。 ②現在は特に外国籍の子どもはいないことを、聴き取りで確認した。 ③ひとり親の家庭が多く、保護者は仕事と子育ての両立で疲れ切ってしまう場合があること、保護者が今、何か悩んでいないかしっかり聴き取るよう配慮していることを、聴き取りで確認した。</p>

<p>健康管理に特別な配慮を必要とする子ども(アレルギー疾患をもつ園児、乳児保育、病後時保育など)の保育に関しての特徴的な取り組み(アレルギー食対応、個別食、離乳食など)について説明してください</p>	<p>①障害児の受け入れ数が多く、気管切開をしているお子さんや、口蓋裂や口内の奇形の為、嚥下が難しいお子さん、ダウン症児への配慮など個別食はとても数多く行っている。栄養士、言語聴覚士と相談しながら、特別食の提供をしている。</p> <p>②アレルギーのある子が5人おり、アレルギーのあるものは提供していない。</p> <p>③0、1、2歳児の離乳食については、食事の状況をみながらすすめている。</p>	<p>①口腔内奇形の子どもには食事形態を変え、口の中に入れやすく、飲み込みやすい状態にしたり、障害のため食事制限のある子どもには特別食を提供していること、特別食はトレイの色を変え、名札をトレイに載せ、さらにラップの上に名前を記入して間違いのないように提供していることを、「献立表」や訪問調査時の昼食の様子で確認した。</p> <p>②アレルギーの子どもは多くないが、その子どものアレルゲンになるものは取り除いて提供していることを、訪問調査時の昼食の様子や聴き取りで確認した。</p> <p>③離乳食は初期、中期、後期と、個々の子どもの状態に応じて提供していること、保育参観の時には、保護者に試食してもらい、情報交換を行っていること、栄養士は子どもと一緒に食事を摂り、子どもたちの状態を確認していることを、「離乳食献立表」や訪問調査時の昼食の様子で確認した。</p>
<p>食に関しての特徴的な取り組みについて説明してください</p>	<p>①市内一括献立ではなく、園独自の献立を和食中心(まごはやさしい)を基本として、栄養士が立てている。また、一人ひとりに合わせた食形態で進められるよう、言語聴覚士とも相談しながら進めている。</p> <p>②セミバイキング形式で自分の食べられる量をよそい、自分たちで給食当番を行っている。</p> <p>③自分たちで栽培した物や、法人の畑で収穫した物、季節の物や子どもたちが自ら作りたい物を使って調理の経験をしている。</p>	<p>①園独自の献立により、マ(豆類)ゴ(胡麻)ワ(わかめ)ヤ(野菜)サ(魚)シ(椎茸キノコ類)イ(イモ類)の食材を使って、ご飯を中心にした和食を提供していること、障害のある子どももいるので、一人ひとりに合った形態を工夫し、すべて手作りの調理で提供していることを、訪問調査時の昼食の様子や聴き取りで確認した。</p> <p>②食事は自発的な給食当番が役割を意識し、子どもたち一人ひとりの希望を聞きながら、よそっていること、子どもたちは自分が食べられる量を給食当番に伝え、自分の思いを伝えることを経験しながら食事を行っていることを、「ドキュメンテーション」や訪問調査時の昼食の様子で確認した。</p> <p>③自分たちで栽培した野菜を収穫し、クッキングなど調理の経験をしていることを、「食育計画」や「保育日誌」などで確認した。</p>

<p>家庭とのコミュニケーションに関する特徴的な取り組みについて説明してください</p>	<p>①ドキュメンテーションを継続して作成し、日々の保育内容や子どもたちの様子、園の方針を伝えられるよう、心がけている。</p> <p>②年2回の懇談会では園側が話すだけでなく、なるべく保護者同士が交流できるよう、保護者の発現を多く拾うようにしている。</p> <p>③年1回の個人面談を行い、担任と話し合う機会を設けている。</p>	<p>①3年前より、日々の子どもたちの様子を「ドキュメンテーション」としてまとめ、保護者に示していること、クラスごとに日々の活動の写真をとりファイルにしていること、写真にはコメントを入れ、園の方針に沿った活動や子どもたちの様子を伝えていること、「ドキュメンテーション」は保護者にも喜ばれ、園の方針を理解してもらっていることを、各クラスの「ドキュメンテーション」や聴き取りで確認した。</p> <p>②年2回の懇談会では、園からのお願いの時間を少なくし、保護者同士が話し合いができるようにしていること、サイコロトークやクッキングなどを取り入れ、話が盛り上がるよう工夫していることを、「保育日誌」や聴き取りで確認した。</p> <p>③面談時は担任や園長とゆっくり話し合い、子育てに関することや家での様子などをより深く理解できる機会としていることを、聴き取りで確認した。</p>
<p>地域の子育て支援に関する特徴的な取り組みについて説明してください</p>	<p>①一時保育ご利用のご家庭を園の行事に招待し参加して頂いている。</p> <p>②園見学の際は園の特色を伝えるだけでなく、子育ての悩みや相談にも関わっていくようにしている。</p> <p>③法人のおーらいご利用の児童たちとの関わりを深め、合同で保育する機会を増やしている。</p>	<p>①一時保育には年間約40名の子どもが登録していること、園で行う「すぽフェス」などの行事に招待し、園の子どもたちと一緒に楽しんでいることを、「ドキュメンテーション」や聴き取りで確認した。</p> <p>②園の見学は多いこと、地域で子育てをしている保護者が見学に来る場合は、子育てで心配なことなど、悩み相談にも関わっていることを、聴き取りで確認した。</p> <p>③医療的ケアの必要な重度心身障害の子どもたちと合同保育を行い、さまざまな人とともに暮らし、人を思いやる気持ちを育む保育を実践していることを、「保育日誌」や訪問調査時の子どもたちの様子などで確認した。</p>

3. 利用者への調査

～ 保護者アンケート調査を実施した結果です ～

(1) 調査の状況

調査期間	平成29年9月～10月
調査方法	所定の調査票(アンケート票)により実施した。
調査対象者の匿名化	調査は無記名で行い、調査結果から回答について個人が特定化される場合は、評価機関で匿名化を図った。
アンケート調査票の配布	対象者には事業所を經由して調査票を配布した。
アンケート調査票の回収	記入済みの調査票は対象者から直接、評価機関に郵送された。
回収の状況	調査票配布数 65通 : 返送通数 40通 : 回収率 61.5%

(2) 調査結果の傾向

◆アンケート調査全体の傾向

- 項目別の回答状況では、「保育方針の周知」や「園での子どもの様子の報告」、「在園中の体調不良やケガの説明」、「保育内容」、「子どもに対する職員の対応や態度」、「保護者に対する職員の対応や態度」、「子どもが楽しく過ごせている」などについて、高い満足が得られている。
- 一方、「インフルエンザなどの感染症の情報提供」や「園舎内などの清潔面や安全面への配慮」、「防犯対策」、「緊急時の連絡体制」などについては、より一層の努力が期待されている。
- 個別意見では良い点として、「職員の対応や挨拶」や「安心して任せられる」、「子どもがのびのびしている」などが挙げられている。
- 保育内容では、「子どもの個性や主体性を尊重している」や「散歩や外遊びが多い」、「異年齢の子どもたちや高齢者、障害児者との触れ合い」、「給食がおいしい」などに、多くの意見が寄せられていた。
- 一方、改善を望む点としては、「職員の対応や態度」や「園での子どもの様子や感染症などの情報提供」、「行事の充実」、「勉強なども教えてほしい」などの意見が挙げられている。園に改善を望む点について、具体的な内容が挙げられていることから、今後の取り組みの課題として位置付けることを期待する。